

新規漁場調査（アワビ） （要 旨）

勢村 均・由木雄一・石田健次

1. 大田市島津谷・山谷地区

昭和59年7月20日に島津谷港東側転石域で、アワビ放流適地調査を行なった。調査区域は水深3～5.5 mで、底は径20～40 cmの転石帯であり、岩礁が点在した。アワビ類の生息は全域で認められ、特に岩礁側面に多かったが、転石帯には浮泥状の沈積物があり、また、海藻の現存量も多くはなかった。

2. 仁摩町馬路・宅野地区

昭和59年7月21日に、馬路港東側および宅野港北東側の島周辺を調査した。

馬路地区調査区域は水深2～9 mの岩礁域で、それ以深は砂礫帯となった。境目にはN型ブロックが乱積みされていた。アワビ類の観察個体数はN型ブロック域が最も多く、次いで水深7 mの天然礁域であった。優占した海藻はクロメおよびアラメであり、現存量は1282～3132 g/m²であった。

宅野地区調査区域は水深6～8 mで平坦な、径40～50 cmごろ石帯であり、アワビ類はどの観察地点でもほぼ同数観察された。優占した海藻はクロメであり、現存量は2855～6789 g/m²であった。

両地区とも適当な構造物を設置すれば、大型個体は生息するものと思われるが、構造物による概存漁場の破壊の危険性、および事業費回収の見通しが問題点として残った。

（詳細は「沿整協会ニュースNo.27、昭和59年度年間報告版」島根県沿岸漁場整備開発協会、を）参照のこと。